

昭和53年度 和歌山県名匠

【民芸品製作】

しば やす お
芝 安 雄

(本名 芝 安男)

【現住所】本宮町(現：田辺市)

【生 年】大正10年

職 歴

本宮町皆地は、皆地笠発祥地といわれ数10戸の家で製造されていたが、この道40年余現在同氏だけが、この伝統をうけ継いでいる。

業績の概要

この地方で、いぞことよぶ茶摘み籠を作っていた父に、幼少より手伝いを通じてその技法を修得された。

昔はやはり、生活用品を中心に籠・蓑・笠等を作っていたが生活様式の変化により次第に民芸品へと変わりつつある。

なかでも茶道具としての花活用、手付籠、掛花籠や炭取りは、注文に応じきれないほどであるが、特殊なものとして京都の聖護院・比叡山延暦寺ぎょうじやがきの行者笠は、現在では、すべて同氏の手によるものである。

昭和52年植樹祭木まつりで両陛下に実演を披露されたほか、東京銀座の有名民芸店「たくみ」では、伝統ある民芸品の一つとなっている。

これらのことにより昭和53年県政功労者として和歌山県知事から表彰を受けられた。